

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 17 日作成)

委員会名	固体音の音響放射特性検討 WG	主 査 名：田野 正典
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会音環境小委員会	委員長名：藤本 一壽
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	内装材の音響放射特性は、固体音を予測する上で重要なパラメータとなる。本WGでは、予測を行う上で必要となる内装材の音響放射特性の扱い方について、前置 WG を中心に行った実験結果に各種音響放射特性の予測式等を適用し、実測値と比較検討し、問題点、今後の課題を抽出する。さらに、それを実証する意味で実例として固体伝搬による遮音低下の実情調査やその対策法について検討を行う。	
委員構成 (委員名 (所属))	別添名簿参照	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	80,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	研究会実施(8 月 1 日) 55 名参加 WG 9 回実施
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 前年度実施した放射実験の検討結果をまとめて、8 月に「固体音の放射をどう扱うか」(研究会)を開催し、その成果を報告するとともに、音響放射に関する議論を行った。この結果を踏まえ、引き続き、音響放射に関する検討を実施し、過去の文献と比較を行った。 また、以下の項目についても、検討を実施し、現在まとめを行っている。 ・ 側路伝播音など躯体からの放射にかかわる遮音低下データの収集と整理 ・ 海外文献に示された側路伝搬予測計算法の実データによる検収 ・ 文献などの材料・部材の放射係数に関するデータ収集と整理 ・ 躯体が無い場合の放射音特性の検討および委員会としての見解 さらに、現在で社会的に話題となっている集合住宅における床衝撃音に関する検討を実施するために、SWG を立ち上げた。同時に、本WGの前身であるWG で検討した設備機械の加振力の測定法を有効に活用するためのSWG も立ち上げた。 委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) WG 満期時(2005 年度)に成果公表を目指し活動中であり、本年度は委員会内での検討実施を目標としているが、実施経過はほぼ予定通りである。
その他評価すべき事項	上記のごとく、固体音問題で問題意識の高い床衝撃音の対応と過去のWGの成果を有効活用するためにサブワーキングを立ち上げた。

WG構成	主査	田野 正典	(鹿島建設建築技術本部)
	幹事	峯村 敦雄	(鹿島建設技術研究所)
	幹事	稲留 康一	(奥村組技術研究所)
	委員	石渡 智秋	(永田音響設計)
		井上 勝夫	(日本大学理工学部)
		漆戸 幸雄	(フジタ技術センター)
		下西 知行	(特許機器)
		浅野 多計昌	(倉敷化工)
		中川 清	(清水建設技術研究所)
		西原 法子	(竹中工務店技術研究所)
		羽染 武則	(東急建設生産技術本部)
		平松 友孝	(大成建設技術センター)
		藤沢 康仁	(大林組技術研究所)
		松岡 明彦	(戸田建設技術研究所)